

電話番号の区切りに関する制度的規範と共同体規範 —中国語と日本語の言語景観の比較研究¹⁾

徐 大 明
包 聯 群

Abstract:

This study of the linguistic landscape of telephone number texts tries to find out the role of “institutional norm” in the process of the formation of language norms, and the role of other social and cultural factors likewise. The research combines the method of linguistic landscape and the quantitative method of language variation studies, and applies the theoretical framework of “community norm/institutional norm” proposed by Xu Daming and Li Ronggang (2022). By analyzing and comparing the data collected from two urban communities in China and Japan, we induce different types of variation and normalization. The texts of telephone number segmentation showed the linguistic norms and variations in Oita, Japan and Yingzhou, China. The community norms of Oita in telephone number segmentation are explained primarily by the strong sense of service in Japan’s businesses. In Yingzhou, the community members who take the lead in displaying telephone numbers in segmented forms are with the same sense of service and driven by commercial competition. The segmented forms of telephone numbers tended to follow “institutional norms”, but the normalization of the segmentation of numbers are motivated also by other factors such as market economy.

1) 本稿は2022年8月26日から29日までにハイブリッド形式で開催された第19回国際都市言語学会の口頭発表に基づくものである（中国東南大学，国際都市言語学会及び南京大学中国言語戦略研究センター共催）。

徐大明（XU Daming）氏は南京大学/教授，中国言語戦略研究センター/研究員である。包聯群（BAO Lianqun）は中国言語戦略研究センター/客員研究員を兼任する。

(2) 電話番号の区切りに関する制度的規範と共同体規範

Keywords: telephone number segmentation, linguistic landscape, language variation, language norm, Sino-Japanese comparison

要旨：

本研究は、電話番号に関する言語景観を対象とし、言語変異から言語規範への転換プロセスにおいて、「制度的規範」が果たす役割、および共同体の外部環境における他の社会的文化的要因の役割を、明確にするものである。本研究は、言語景観の調査方法と言語変異の定量的分析方法を結合させ、「共同体規範」と「制度的規範」の理論的枠組み（徐大明, 李栄剛 2022）に基づき、中国と日本において、それぞれ1つの都市を選定し、収集したデータの比較分析を行い、様々な変異や規範的類型の発見を目指す。また、電話番号の区切り表記において、大分県大分市と中国海南省陵水県英州鎮²⁾の双方での変異現象、及び大分県大分市での「共同体規範」現象が見られた。大分県大分市の電話番号の区切り規範は、日本のビジネス文化とサービス意識にその答えを見出すことができる。中国海南省陵水県英州鎮では、電話番号の区切り表記を率先的に実行した共同体メンバーは、日本同様にサービス意識によるものである。電話番号の区切り表記は「制度的規範」に従う特徴があるものの、経済的要素など他の外的要因の影響も同時に見られる。

キーワード：電話番号の区切り、言語景観、言語変異、言語規範、日中比較

1. 前書き

言語景観に関する研究は、過去20年間に盛んになり、その研究内容は拡大し続け、他の研究分野や方向性とも関連があるようになり、融合性も生じている。例えば、言語経済との関連研究がある（Backhaus 2005, Inoue 2005, 包聯群 2015, Wang and Xu 2018 等）。本研究は、言語景観研究と言語変異研究を結合させることを試み、言語景観の窓口を通して共同体における言語変異現象を観察し、口話共同体（Speech Community）と言語計画に関連する理論を検証する（徐

2) 「鎮」とは中国の行政区域の名称である。中国の行政区域分けは凡そ「中央→省→市→県→鎮→村」の順になる。

大明 2004, 徐大明, 李榮剛 2022 等)。関連する理論的基盤には, 言語変異理論(徐大明等 1997, 徐大明 2006), 口話共同体理論(Xu 2015), および口話共同体計画構想(方小兵 2015, 2018)などの内容が含まれる。上記の理論的背景下で, 本研究では, 徐大明, 李榮剛(2022)によって提唱された共同体規範と制度的規範との関係に焦点を当て, 言語的文化的背景が異なる二つの共同体における電話番号の区切り表示の実態を比較する。それによって, 口話共同体における制度的規範などの外的要因の規範的役割を発見することを目指すものである。

1.1. 研究背景

口話共同体理論が提唱されて以来, 言語変異に関する解釈から理論的システムまでの研究は, 20年間以来, 継続的に改善されつつ, 一連の成果が蓄積されてきた(徐大明 2004, 2022a, b, Van den Berg and Xu 2010, Xu 2015 等)。言語変異の説明として, 口話共同体理論は「話者の選択」に関するミクロ的な社会言語学とマクロ的な社会言語学の見解を統一し, 「話者の選択」の限界を指摘している(徐大明 2004, Xu 2010 等)。理論的体系の構築として, 口話共同体理論は, 社会学的共同体理論が社会言語学に及ぼす影響を説明し, 「共同体要素」の理論を応用し, 「口話共同体の五つの要素」のモデルを提案した(徐大明 2004, Xu 2015, 周明強 2007, 王玲 2009, 莫莉 2018 等)。

新世紀以降, 中国の言語学界は「言語資源」や「言語生活」などの理念の影響を受け, 「言語戦略」という新しい概念の看板を掲げて, 「言語政策と言語計画」の研究をブームとして盛り上がりはじめた(李宇明 2016, Xu and Zhang 2019, Fang and Ge 2021 等)。このような状況下において, 口話共同体理論が当研究分野にも適用され, 「口話共同体計画」(方小兵 2015, 2018)や「言語交換」(徐大明 2015, 劉艷 2019)などの研究成果が現われた。さらに「言語主体と社会制度との相互作用」という新たな言語計画観が形成された(徐大明2022a, b等)。こうした言語計画観の視点から, 言語変異と言語規範の関係が注目されている(徐大明, 李榮剛 2022)。

(4) 電話番号の区切りに関する制度的規範と共同体規範

1.2. 研究課題

徐大明, 李栄剛 (2022) は, 最近実施された電話番号の区切り研究 (張斌華 2022, 李栄剛 2022) を「言語規範」の研究視点に組み込み, 中国語における電話番号の区切り現象の語用的な変異性を確認しただけではなく, 「制度的規範」と「共同体規範」の二つの概念を提案し, それをさらに電話番号の区切り変異の解釈に適用した。徐大明, 李栄剛 (2022) は, 語用的な変異現象が言語標準化の盲目的な領域に入ることが多いため, その規則性は共同体自体の規範的役割を浮き彫りにした。電気通信機構の番号区切り基準は「弱い」制度的規範としては, 共同体における集団的変異のサポートや制約条件となっている。従って, 本研究は言語変異の研究対象を拡大し, 同時に, 変異や規範との関係性を探る。

本研究では, 上述先行研究を参考にし, 電話番号区切りの変異に関する研究を継続すると同時に, 張斌華 (2022) から啓発を受け, 言語景観の実証的手法を適用し, 言語景観における電話番号変異の制約条件を分析し, 制度的規範が共同体規範の形成プロセスにおける役割をさらに検証する。既存の研究と比較してみると, 言語景観における電話番号の区切りに関する本調査研究は, 規模を拡大しただけではなく, 二つの異なる言語的文化的環境における日中の比較も展開した。本研究の目的は, 実証的根拠の拡大に焦点を当てることに限らず, 制度的規範の役割を明確にし, 社会的文化的環境における多様な要因の影響をより深く探ってみる。

1.3. 調査方法

筆者らが知る限りでは, 張斌華 (2022) は, 言語景観の調査方法を電話番号の区切り状況の調査に最初に適用した研究である。張斌華 (2022) は, 言語景観の電話番号テキストを書面語形式とし, 口頭で携帯電話番号を知らせる調査結果と比較し, 両者に相当な違いがあることを明らかにした。当地域では, 書面語テキストにおいては, 区切りをしないのが主で, 口頭ではほとんどが区切りをしていた。同時に, 書面語テキストでの携帯電話番号の区切り方は基本的

に電気通信システムの規範的タイプであり(3-4-4式)、一方、口頭で番号を知らせる区切りのタイプは非常に多様であり、「3-4-4」式だけではなく、「3-3-5」式などの主な区切りタイプがあり、その他少なくとも十数の区切りタイプがあった。張斌華(2022)は、言語景観電話番号の区切りに関する初めての調査としては、100件以上の電話番号のテキストを収集し、この数は口頭で番号を知らせる調査の人数と基本的に一致している。調査で取れたサンプルはそれほど多くないが、上記の比較結果は注目し得る。また、張斌華(2022)は携帯電話番号の区切りの理由を調査しており、その結果も非常に興味深いものである。氏は同時に、電話番号の区切り現象は、話し言葉から書き言葉へと広がる傾向にあると結論を付けた。これらの結果は、本研究の注目すべき内容となっている。

筆者の徐は、2022年3月から5月までの3ヶ月の期間にわたって、中国海南省陵水県英州鎮の中心商業地区の街頭景観を観察し続けたところ、一部の電話番号が区切られて表記している現象に気付きはじめた。その後、「言語文明規範と社会的ガバナンス研究」プロジェクトのグループでこの問題について議論を展開し、プロジェクトチームの一部のメンバーの関心を引き起こし、その後、「携帯電話番号変異研究」グループが結成され、メールやWeChatを通じて、グループのメンバー間で議論と共同研究作業が展開されてきた。電話番号区切りの言語現象、特に中国の携帯電話番号の区切り現象を书面語と口語の両方を対象にし、調査研究を展開した。そのため、李栄剛(2022)、張斌華(2022)、于蓉(2022)、徐大明、李栄剛(2022)などの研究成果が続々と発表された。

2022年5月に、共同執筆の包が研究グループに加わり、重要な国際的視点と新たな共同研究成果をもたらした。5月28日に発表された会議論文³⁾では、徐大明、

3) 2022年5月28日に大分大学にてハイブリッドの形式で開催された「第十一回 日中国際ワークショップ 現代中国における言語政策と言語継承—言語継承における言語景観の役割」にて口頭発表。

(6) 電話番号の区切りに関する制度的規範と共同体規範

包聯群(2023⁴⁾)は、電話番号区切りの日中比較の景観調査結果を初めて報告した。この研究では、中国の海南省陵水県英州鎮と日本の大分県大分市⁵⁾で、ほぼ同じ時期に同じ方法で言語景観調査を行った。これは、李栄剛(2022)、張斌華(2022)、于蓉(2022)、徐大明、李栄剛(2022)の研究成果を検証し、補足したものである。

具体的には、2022年5月7日に包が大分市の商業地区で言語景観調査を実施し、徐が2022年5月20日から23日にかけて英州鎮の商業地区で言語景観調査を実施したのである。両方の調査時期が近く、同じ撮影や記録の方法を取り、選定道路区間の店舗看板や街頭の各種屋外広告の言語景観データを網羅し、大分の調査では616件の番号関連データを収集し、英州の調査では、680件の番号関連データが収集された(同じ数字が異なる場所に表示されるとき、異なるものとして記録される⁶⁾)。

2. 言語景観の比較研究

張斌華(2022)の中国東莞での言語景観調査と比較すると、英州と大分の調査は、電話番号の区切り研究の実証的基盤をさらに広く切り開き、同時に、共同体や言語文化を跨る比較研究の道を切り開いたと言える。このように張斌華(2022)の東莞での言語景観調査で発見された番号区切りの変異は、かなり一般的な言語現象であることが証明された。東莞共同体での別の発見は、携帯電話番号の口頭による番号の知らせは主な現象であるが、街頭での景観表記ではそうでもなかったという(張斌華 2022, 于蓉 2022)。大分と英州の調査では、英州は東莞と同様に、景観における番号区切りも非主流現象であることが示さ

4) 本文は日付2023年1月刊行予定の『『現代中国における言語政策と言語継承』(第七巻)、包聯群編著。東京：三元社』に掲載される。

5) 本稿では、記述上の便宜を顧慮し、個別の場合を除き、「市や鎮」などの文字を省略し、それぞれ「英州」と「大分」のように記述する。他先行研究(中国の東莞)も同様に扱う。

6) 同じ電話番号が2回以上現われることはそれほど多くないが、異なる区切り方で表記されるものもある。

れているが、大分の景観における電話番号はほとんどの場合、区切りして表記されている。表1は英州と大分の二つの共同体における言語景観の調査結果であり、区切り番号の割合は、それぞれ 22.4%（英州）と 99.8%（大分）である。

表1：英州，大分の言語景観における電話番号の区切り表記変異状況

調査地	英州	大分
区切り電話番号の割合	146/652 (22.4%) ⁷⁾	609/610 (99.8%) ⁸⁾

英州と大分での調査では、街頭景観における電話番号をより包括的に記録しており、収集した番号には、携帯電話、固定電話、公共サービス電話、その他の目的別の電話番号が多く含まれている。東莞の調査目的は、書面語と口頭での電話番号の区切りを比較するものであるため、携帯電話番号の区切り状況の内容のみが提供された。東莞の結果と比較するため、英州と大分の景観での携帯電話番号の区切りデータを分離し、東莞のデータとさらに比較した結果を表2に示している。東莞は13.7%、英州は16.0%、大分は100%であった。

表2：東莞，英州，大分の言語景観における携帯電話番号の区切り表記変異状況

調査地	東莞	英州	大分
区切り電話番号の割合	13/95 (13.7%) ⁹⁾	88/549 (16.0%)	17/17 (100%) ¹⁰⁾

以上の結果は、電話番号の区切りにおける二つの基本的類型を示している。即ち、

7) 徐大明，包聯群（2023：表3）。

8) 徐大明，包聯群（2023：表3）。

9) 于蓉（YU）（2022：51）の報告データに従って計算すると、47の店舗の看板にある携帯電話番号のうち、12.8%、48の街頭小規模な広告にある携帯電話番号の14.6%は区切りをしている。

10) 英州とは違い、大分の街頭に現れる電話番号はほとんどが固定電話番号である。

(8) 電話番号の区切りに関する制度的規範と共同体規範

ほぼ区切りされていない東莞-英州型と、大体すべてが区切りされる大分型である。口話共同体の分析(徐大明・李栄剛 2022)によれば、大分型は「共同体規範」の類型であり、大分の共同体メンバーの意識において、会社や個人の電話番号を表記する際、誰でも「自然に」に区切りの形式で表示される。これに対応して、東莞または英州のほとんどの共同体メンバーの「無意識」の選択は、一つの電話番号を表記する際、「マルゴト」に表記することである。これは「正常」ではなかろうか?また、東莞と英州では電話番号を区切りして表示する共同体メンバーはどのような考えを持つだろうか。彼らは共同体における番号を区切りしない一般的な形式に対して「見れども見えず」ではないだろう。従って、「異なる」選択をしたと考えられる。

東莞と英州型の共同体では、電話番号を区切りして表記する共同体メンバーはごく少数であるが、それでも共同体の10%から20%以上を占めており、無視できない部分である。同時に、これらの区切りした電話番号のデータにも強力な内部一貫性が見られた。これは、実際に共同体のこうした「マイノリティ」集団の特性を反映していると言える。

東莞と英州の区切り番号の内部の一致性は、二つの側面で現れている。一つは「区切り方」であり、もう一つは「区切り記号」である。「区切り方」とは、「一つの番号をいくつか区切りし、いくつかの桁が一つの区切りを形成する」配列式の結合を指す。例えば、11桁の携帯電話番号の「(3-4-4)区切り方」(1XX-XXXX-XXXX)、「(3-3-5)区切り方」(1XX-XXX-XXXXX)などの形式である。「区切り記号」という用語は、ここで初めて使用したはずであり、「区切りの間隔を示すために使用される記号」を指す。上述の言い方は使用されていないが、徐大明、包聯群(2023)が注目しはじめており、具体的には「スペース」と「ハイフン」などの二つのタイプを指摘している。これまでに調査したいくつかの共同体の結果は、各共同体において、主の区切り方に加えて、主な区切り記号もあることが示されている。表3は、東莞、英州と大分の調査で見られた携帯電話の区切り方と区切り記号の状況を示すものである。表3からわ

かるように、3ヶ所の景観での携帯電話番号の区切り方は同じで、ほとんど差異が見られず、中国と日本の区切り記号は異なる規範を示しているように見えるが、基本的に各共同体において変異はない状況である。

表3：東莞，英州，大分の言語景観における携帯電話番号の区切り方と区切り記号の変異状況

調査地	東莞	英州	大分
携帯電話の区切り方 (3-4-4式)	13/13 (100%) ¹¹⁾	88/88 (100%) ¹²⁾	15/17 (88.2%) ¹³⁾
区切り記号	空白 (スペース) 13/13 (100%) ¹⁴⁾	空白 (スペース) 87/88 (98.9%) ¹⁵⁾	ハイフン 17/17 (100%) ¹⁶⁾

東莞市の調査で観察された108件の電話番号のうち、95件の携帯電話番号に加えて、13の固定電話番号があった。具体的には、店舗看板が5件、小さな広告が8件あったが、調査報告書ではこれらの番号の区切り情報について言及はなかった。その後、英州と大分の調査でも固定電話番号も一部発見され、またこれらの番号

-
- 11) 于蓉 (YU) (2022: 51) の報告データに従って計算すると、店舗の看板と街頭小規模な広告にある携帯電話番号は合計95件あり、区切りをしているのが13件、すべて「3-4-4」の区切り方式である。
 - 12) 徐大明, 包聯群 (2023: 表2) によると、英州の146件の区切りされている電話番号のうち、88件は11桁の携帯電話番号であり、すべて「3-4-4」の区切り方式が採用されている。
 - 13) 徐大明, 包聯群 (2023: 表2) によると、大分の609件の区切りされている電話番号のうち、17件は11桁の携帯電話番号であり、「3-4-4」の区切り方式が採用されているのが15件で、その他の2件は「4-3-4」の区切り方式である。
 - 14) 張斌華 (2022) の報告によると、東莞の6件店舗の看板と7件の街頭小規模な広告にある携帯電話番号はすべて「空白」(スペース)方式である。
 - 15) 徐大明, 包聯群 (2023) によると、英州の146件の区切りされている電話番号のうち、128件は(純)「空白」(スペース)方式が採用され、その中で、87件は携帯電話番号であり、その他の41件は固定電話番号と400-の企業電話番号である。
 - 16) 大分の電話番号の景観において、17件の携帯電話番号のうち、15件は「3-4-4」の区切り方式で、2件は「4-3-4」であるが、すべてがハイフンを区切り記号としている。

(10) 電話番号の区切りに関する制度的規範と共同体規範

の区切り状況が記録された(徐大明, 包聯群 2023)。表4は、英州と大分の固定電話番号の区切り方の実態をまとめたものである。この表からわかるように、英州の市外局番付き固定電話において、区切りをし、また「444」の区切り方が採用された割合は37.5%である。それに対し、大分市の市外局番付き固定電話において、同様に区切りを三つにする番号の割合は99.7%に達していた。同時に、英州の市外局番なしの8桁(市内番号)固定電話が二つに区切りされる割合は19.6%であり、大分市の市外局番なしの7桁(市内番号)の固定電話が二つに区切りされる割合は92.4%である。表4には、英州で見つかった91件の固定電話番号のすべてに含まれる市内番号の区切り数とその割合、および大分で見つかった385件の固定電話番号すべてに含まれる市内番号の区切り数とその割合(実際には、表の上2行の数値の合計)であり、それぞれ27.5%(英州)と98.4%(大分)である。

表4：英州，大分の言語景観における固定電話番号の区切り方の変異状況

調査地	英州	大分
市外局番がある固定電話の区切り方(3/4-3/4-4式) ¹⁷⁾	15/40 (37.5%) ¹⁸⁾	318/319 (99.7%) ¹⁹⁾
市外局番無の固定電話の区切り方(3/4-4式) ²⁰⁾	10/51 (19.6%)	61/66 (92.4%)
固定電話の市内番号の部分的区切り方(3/4-4式)	25/91 (27.5%)	379/385 (98.4%)

17) 英州の市外局番は0898(4桁)、大分市の市外局番は097(3桁)である。英州の市内番号は8桁で、大分市の市内番号は7桁である。したがって、区切り記号で市外局番を区別し、そして市内番号も区切りされる区切り方式である。ここでは、「3/4-3/4-4」と表示されている。

18) 徐大明, 包聯群(2023:表4)によると、英州の40件市外局番がある固定電話番号のうち、15件は「444」の区切り方式が採用されている。

19) 徐大明, 包聯群(2023:表4)によると、大分の319件市外局番がある固定電話番号のうち、「3-3-4」の区切り方式が採用されているのが318件である。

20) 英州の市内番号は8桁で、大分市の市内番号は7桁である。

英州の言語景観にある固定電話の区切り記号には、括弧、スペース、およびハイフンの3種類があり、最も一般的なのは、完全にスペースを使用するものである。例えば、「444」の区切り方は0898 XXXX XXXX のように示される。それ以外の場合は、0898-XXXX XXXX のように、一つの番号で二つの区切り記号を用いるのが一般的である。さらに、(0898) XXXXXXXX のように、括弧を使用して市外局番を区切ることも良く見られる。

大分市の景観に見られる固定電話の区切り記号が豊富で、英州にある3種類の他に、「097・888・8888」などのような「中点」（あるいは「中黒」）もある。また、括弧の使い方も英州よりも自由度が高く、英州の括弧は「(0898) XXXXXXXX」のように市外局番の表示にしか使わず、大分では「0978 (88) 8888」のように真ん中に括弧を入れることもできる。しかし、最も顕著な違いは、英州ではハイフンのみを使用する区切りがほとんどないのに対し、大分ではスペースのみを使用する区切りがほぼ見られなかった。

以上をまとめると、(1)大分と英州では共同体規範が異なり、英州では電話番号を区切りして表示する人は「少数派」であり、大分では電話番号を区切りせずに表示することはほとんどない。(2)英州と大分の主な区切り方は非常に似ており、携帯電話番号の主な区切り方はまったく同じであり、固定電話番号の区切りも同じパターンが適用されている。(3)英州と大分には多種類の区切り記号が見られるが、ほとんどは同じであるが、主な区切り記号はまったく異なる。

3. 考察

電話番号を区切りするか否かについて、主な区切り方と主な区切り記号の解釈には、三つのレベルの問題が含まれる。即ち、①記憶とコミュニケーション ②言語変異 ③共同体規範である。記憶の制限については、徐大明・李栄剛（2022）が既に説明しているが、ここで議論できるのは「コミュニケーション」の影響とその役割である。個々の話し手にとって、記憶を容易にするために、長い数字列

(12) 電話番号の区切りに関する制度的規範と共同体規範

の番号をいくつかの区切りに分けて記憶し、話すことができる。同じことが個々の聞き手にも当てはまり、3桁または4桁の数字は、長い数字列より聞きやすく、記憶しやすいのである。従って、番号を区切りする元の動機は、記憶とコミュニケーションの自然な条件に由来する（陸丙甫，応学鳳 2019，徐大明，李栄剛 2022）。

個々の話し手は便利な記憶を必要とするが、問題を解決する方法は異なる。5桁を超える長さの数字の記憶は電話番号に限らない。しかし、現代生活では、電話番号を記憶し、コミュニケーションを取るのが日常的な活動になっているため、携帯電話番号の区切りと社会的相互作用の影響は無視できない。李栄剛（2022）と張斌華（2022）の調査によると、ほとんどの携帯電話ユーザーは、すでに習慣的になっている携帯電話番号の区切り方があり、さらに重要なのは、これらの区切り方は比較的典型的な言語変異の現象を構成し、即ち、多様性がある一方、主要な傾向にもなる。例えば、徐州と東莞の調査では、11桁の携帯電話番号の一般的な区切り方に「3-44」式がある以外、「3-3-5」式もある。この二つの区切り方は偶然にもこの両方の場所で主な方式になっており、順序も一致している。ここでは、地域間の交流や接触の影響の可能性もあり、また「3-44」式が電気通信システムの規範的な区切り方であったためかもしれない。しかし、「3-3-5」式は「3-44」式の次となる現象をどう説明するのか？ 張斌華（2022）と李栄剛（2022）によって発見された他の方式は十数種類もあるが、なぜこれらの方式が「普通」と異なるまれな方式なのか？

これは恐らく「言語変異」理論と「口話共同体」理論を用いることによってのみ明確に説明できる。「電話番号の区切り」は単なる「記憶」や「インタラクティブ」現象ではなく、言語現象であるため、必然的に言語の社会的特性が反映される。具体的に言えば、言語は可変性があり、共同体とも関係がある。これらは言語の不可欠な特徴であり、なくてはならない要素でもある。前述のように、言語変異は無秩序で道筋が通っていない部分的な差異ではなく、特定の範囲内の限られた差異である。これらの差異が限定的で、その有効性の範疇外壁は、「口話共同体」である。具体的な例を挙げると、いわゆる「有限性」

とは、東莞には、ある人は携帯電話番号の区切りをしないが、4つまたは5つに区切りする人もいる（張斌華 2022）が、共同体の範囲内では、3つの区切りをする二、三種類の区切り方しかメンバーらに熟知されていない。

もう一度この例を使ってその有効性を説明すると、5つの区切りと6つの区切りに分ける話し手にとっては、この区切りの意義と役割は主に記憶と自己伝達であり、他の人に伝えるのは難しいかもしれない。さらに共同体のすべてのメンバーに完全に受け入れられる可能性は低い。個別化された言語形式が共同体に必ずしも受け入れられないだけでなく、異なる共同体間の語用的な違いもコミュニケーションを阻害する可能性がある。例えば、大分市の「097（888）8888」の方式は英州や中国の他の共同体に突然現れた場合、これが電話番号であるとすぐに認識できるのか、またどの部分が市外局番であるかを明確に識別できるのか？これについて、テストしてみても良いが、この方式は大分県では珍しいとは言え、上記のような疑問は生じないはずである。

言語変異理論は、電話番号の区切りの変異現象を説明することができ、番号の区切りに関する最近の研究では、「言語変異」と「言語規範」を理論的に関連付けた（徐大明, 李栄剛 2022）。徐大明, 李栄剛（2022）は、言語変異、共同体規範および制度的規範間の関係を説明するために、次のモデル（図1）を提唱した。その後、徐大明, 包聯群（2023）がこのモデルを補充し、図2の内容になった。図2と図1の違いは、4重リングの最外輪の説明部分のみであり、図1の「制度的規範」は、図2では「外部環境」に置き換えられている。実際に、図1、図2に示されているモデルは相容れないわけではなく、その違いは視点の違いだけである。ロジック的に言えば、「制度的規範」は口話共同体の外部環境の一部を構成するため、「外部環境」に含まれる。これも徐大明, 包聯群（2023）は新しいモデルを提唱した理由である。しかし、言語計画の視点に限定するなら、図1は「言語主体と社会制度の相互作用」と「共同体言語計画」の構想を示している（方小兵 2015, 2018, 徐大明 2022a等）。言い換えれば、言語計画は、国や政府などの社会機構

(14) 電話番号の区切りに関する制度的規範と共同体規範

が共同体規範に影響を与えて変更するプロセスと見なすことができ、共同体内の各集団や個人が様々なレベルで制度的規範の影響を受ける。

このモデル(図1)を用いて、徐大明, 李栄剛(2022)は、当時発見された電話番号の区切りの変異現象を説明し、電気通信システムの「3-44」区切り方を制度的規範として定義した。そのため、個人の習慣としての区切り方は必ずしも制度的規範と一致するわけではないが、制度的規範の影響は集団的レベルや共同体的レベルに反映される傾向がある。「3-44」の区切り方が集団的特性や共同体の主な傾向になっていることがそれを証明している。

電話番号区切りの変異現象の説明として、言語計画の視点に捕らわれてはいけないと考えているため、図2に示されているモデルはより包括的な説明を提供できる。社会言語学の研究は、共同体が自発的に規範を形成するという考えを支持している(Trudgill 2017)。現代言語の形成と発展は、言語計画の役割と影響を排除することはできないが(徐大明 2022a, b)、言語の最も信頼できる事実、依然として口話共同体の実践的事実である。言語のすべての現実的内容において、最も重要なのは、言語の共同体規範であるという事実である。前述のように、英州と大分の景観調査の主な結果は、英州には存在しないが、大分ではすでに電話番号の区切り表記の共同体規範が形成されているということである。徐大明, 李栄剛(2022)は、携帯電話番号の区切りなどの語用的な規範は、言語標準化の「盲目的な領域」のままであると指摘している。「固定電話の電話番号」やその他の電話番号について日本の総務省による詳細な説明や公示がある²¹⁾。しかし、こうした「制度的規範」が「共同体規範」に一定の

21) 総務省 (https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/tel_number/number_shitei.html) 総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課番号企画室による「固定電話の電話番号」という説明があり、また、「番号」について「国内プレフィックス「市外局番(1~4桁)+市内局番(1~4桁)」合計5桁+加入者番号(4桁)」のような詳細な図を加えた説明がある。

影響を与えるものの、「制度的規範」はそのまま「共同体」に受け継がれ、「共同体規範」²²⁾ になるとは言いがたい。これは井上史雄 (2023: 215) で言及している「田舎の古い商店街だと、(45) 6789のような () を用いた古い形式の表示が残っている。」²³⁾ ことと中国の英州の事例からもわかるだろう。筆者らの知る限りでは、中国と日本では、電話番号に関して「制度的規範」はあるものの、「言語管理機構」は電話番号の区切り規範や基準を公表していない²⁴⁾。

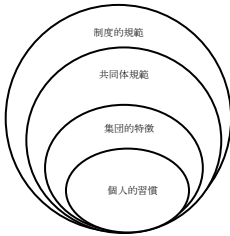


図1：個人的習慣、集団的特徴、共同体規範と制度的規範

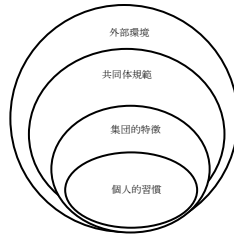


図2：個人的習慣、集団的特徴、共同体規範と外部環境

22) 井上史雄 (2023:215) では、「役所の書類などでは、今でも () のように局番を () 内に書く様式がある。この () は、実際に電話をかけるときには、役立たず、無意味である。外国人にも意味不明である。かつての電電公社で推奨したわけでもない。前代の局番を () で囲む遺風が残存したに過ぎない。その後 () で囲む習慣が廃れて、数字すべてを012-345-6789のように2個ハイフン - - でつなぐ書き方が広がった。他方インターネットで電話番号を入力するときには、半角数字で、ハイフン(やカッコ)を省くことが要求されることもある。情報伝達にカッコやハイフンが役立たない(邪魔になる)ことを示す。

徐大明・包聯群 (2023) の、県庁所在地大分市の景観においては、最新の2個ハイフン区切り - - が圧倒的になっている。しかし田舎の古い商店街だと、(45) 6789のような () を用いた古い形式の表示が残っている。……」という。

23) 大分市の「市内局番」は三桁に変わったにも関わらず、大分市寒田地区の二箇所にて「2桁+4桁」の古い形式が残っていることが確認された。

24) 日本の民間では、嘗ての括弧の代わりにハイフンを区切り記号として使用する慣習が広がりつつある (井上史雄 2023)。

(16) 電話番号の区切りに関する制度的規範と共同体規範

しかし、日本の普通の共同体²⁵⁾として、大分の共同体のメンバーは、「電話番号の区切り表示」という共同体規範を自覚的に実践している。さらに、この調査は、中国のあらゆるレベルの政府機関が公式文書を公開する際に、基本的に「電話番号の区切りなし」という文面の規範を示している。しかし、東莞や英州などの都市共同体では、看板や広告に電話番号の区切り規範を自覚的に適用する一部の企業もある。大分では区切りされていない電話番号は少ないものの、区切り方や区切り記号は英州に比べて非常に多様化している。英州の景観には、「政府系」の区切りをしていない番号が少なくはないが、同時に、ほとんどすべて区切りされた景観の電話番号は、電気通信システムの「制度的規範」の書式に適合している。中国では、国家によって独占されているいくつかの通信事業者が携帯電話番号の区切りの規範を執行しているが、多くの電話ユーザーは基準を理解していないか無視している（李栄剛 2022, 徐大明, 李栄剛 2022）。従って、徐大明, 李栄剛（2022）は、それを「弱い制度的規範」と定義し、社会全体で強制的に推進される「強い制度的規範」と区別している。「政府系」の手本としての区切りしない方式と共同体のほとんどのメンバーが区切りしていない方式が示されている背景下において、東莞と英州のいくつかの店の看板と小さな広告は区切りされた電話番号を表示している。上述のように、これらの「少数派」の行為は「無意識」ではなく、積極的な行動を取っていることになる。日本では、公共領域での電話番号の区切り表示の文化的背景は、受け手向けのサービス意識である（井上史雄 2023²⁶⁾）。

もちろん、社会規範が一旦形成されると、無意識の習慣的な行為になる可能性がある。英州では、区切りされていない電話番号は「適合」の結果である可能性がある。しかし、共同体の既定の行動規範に違反していることを承知の上

25) 著者らが知る限り、大分の電話番号の区切り表記は日本で特別ではない。

26) 本文は日付2023年1月刊行予定の『『現代中国における言語政策と言語継承』(第七巻), 包聯群編著。東京：三元社』に掲載される。

で、区切り表記方式を選択した少数の商売人と小規模な広告主は、ビジネス競争の意識からこうした選択をしたと推測できる。もちろん、これは共同体を越えた広がりや「言語接触」の結果である可能性もあるが、なぜこのような形式が広がるのか、誰が広めているのか、誰が最初にそれを受け入れたのかなど、さらなる研究が必要な問題でもある。これ以上の調査結果がない現状では、とにかく「ビジネス文化」の説明を受け入れよう。言うまでもなく、表記されている電話番号を覚えたいという欲求に突き動かされ、多くの業者は区切りされた電話番号の読みやすさや覚えやすさの特徴を顧慮するだろう。

4. 結論

共同体規範と制度的規範の概念が先行研究で定義されており、これらの概念を用いて電話番号の区切りの変異現象を説明している。これに対して、本研究は言語景観についての関連データの整理と補充を行うことにより、異なる共同体や異なる文化背景下にある電話番号の区切りの規範的レベルを比較分析し、無区切りから有区切りまでのいくつかの異なる変異と規範的類型、及び関連する区切り方と区切り記号の変異や規範的パターンを見つけた。中国の東莞市、英州鎮および日本の大分市における言語景観に関する調査研究は、共同体規範と制度的規範を区別するという理論的観点を中心に支持し、同時に電話番号の区切り傾向の発展原動力に関する問題に答えることができた。電気通信システムの制度的規範は、確かに個人、集団および共同体による電話番号の区切り形式の採用を推進する原動力である。同時に、ビジネス競争も一つの原動力である。口話共同体の外部環境における市場経済要因として、顧客にとって便利な電話番号の区切り意識を含め、言語サービス意識の向上にも有益である。このような意識こそが、言語景観における電話番号区切りの傾向を推進したのである。

参考文献

- Backhaus, Peter. 2005. Signs of Multilingualism in Tokyo — A Linguistic Landscape Approach. Universität Duisberg-Essen, PhD Dissertation.
- Fang, Xiaobing and Ge Yanhong. 2021. China Language Strategies. In Ye Zhengdao. (Ed.) , *The Palgrave Handbook of Chinese Language Studies*. Singapore: Palgrave Macmillan. https://doi.org/10.1007/978-981-13-6844-8_23-1
- Inoue, Fumio. 2005. Econolinguistic aspects of multilingual signs in Japan. *International Journal of the Sociology of Language*. 175-176: 157-177.
- Trudgill, Peter. 2017. Sociolinguistic typology. In A. Y. Aikhenvald & R. M.W. Dixon (eds.) *The Cambridge handbook of linguistic typology*. Cambridge: Cambridge University Press, 124-150.
- Van den Berg, Marinus and Xu Daming. 2010. Industrialization and the Restructuring of Speech Community in China and Europe, Newcastle: Cambridge Scholars.
- Wang, Xiaomei and Xu Daming. 2018. The Mismatches between Minority Language Practices and National Language Policy in Malaysia: A Linguistic Landscape Approach, *Kajian Malaysia: Journal of Malaysian Studies*, Vol.36, No.1, 105-126.
- Xu, Daming. 2010. The Formation of a Speech Community: Mandarin nasal finals in Baotou, Urbanization and the Restructuring of Speech Communities in China and Europe, edited by Marinus van den Berg & Daming Xu, Newcastle: Cambridge Scholars, 2010, 120-140.
- Xu, Daming. 2015. Speech Community and Linguistic Urbanization: Sociolinguistic theories developed in China. In Dick Smakman; Patrick Heinrich (Eds.) , *Globalizing Sociolinguistics: Challenging and expanding theory*, London and New York: Routledge, 95-106.
- Xu, Daming and Zhang Jingwei. 2019. Chinese Sociolinguistics. In *Handbook of Chinese Applied Linguistics*, edited by Huang et al., London and New York: Routledge, 2019, 691-708
- 包聯群 (2015) 「經濟言語学の視点からみる言語景観—アメリカのチャイナタウンと日本の中華街の比較」, 『大分大学 経済論集』(第66巻第5号), 85-116頁。大分大学経済学会。
- 方小兵 (2015) 言語社区规划与母语安全, 《语言政策与规划研究》。2 (01) : 17-29頁。

- 方小兵 (2018) 从家庭语言规划到社区语言规划,《云南师范大学学报》(哲学社会科学版)。50 (06) : 17-24页。
- 井上史雄 (2023) 「電話と名刺の社会言語学—電話番号と郵便番号の歴史的・地理的背景」,『現代中国における言語政策と言語継承』(第七卷), 209-272頁。包聯群編著。東京:三元社。
- 李荣刚 (2022) 手机号码分段, 你是哪個“段”位? <语言战略> (CCLASS) WeChat 公众号。2022-4-22。
- 李宇明 (2016) 语言生活与语言生活研究,《语言战略研究》。1 (3) : 15-23页。
- 刘艳 (2019) 推普脱贫中的语言交换行为分析——基于安徽省某贫困地区的语言调查,《语言战略研究》。4 (01) : 78-87页。
- 陆丙甫, 应学风 (2019) 人类信息处理能力限度对语言结构的基本制约,《语言教学与研究》第3期, 14-24页。
- 莫莉 (2018) 从历时的角度看言语社区各构成要素的作用,《河南工程学院学报》(社会科学版)。33 (3) : 68-70页。
- 王玲 (2009) 言语社区基本要素的关系和作用——以合肥科学岛社区为例,《语言教学与研究》。2009 (5) : 80-85页。
- 徐大明 (2004) 言语社区理论,《中国社会语言学》第1期, 第18-28页。
- 徐大明 (2006) 《语言变异与变化》。上海:上海教育出版社。
- 徐大明 (2015) 语言交换理论初探,《琼州学院学报》第22卷, 第1期, 第1-15页。
- 徐大明 (2022a) 超国家层面语言规划需要引进语言主体与社会机构互动的理念,《语言战略研究》第2期, 第56-57页。
- 徐大明 (2022b) 三主体言语社区:互联网时代的语言生活。Global Chinese 2022; 8 (1) : 45-53页。
- 徐大明, 包聯群 (2023) 「言語景觀における電話番号区切りの変異状況」,『現代中国における言語政策と言語継承』(第七卷), 273-288頁。包聯群編著。東京:三元社。
- 徐大明, 李荣刚 (2022) 个体, 群体, 社区与语言规范——手机电话号码分段现象的启示, 第十一届全国社会语言学学术研讨会, 浙江:金华, 2022年4月23-24日。
- 徐大明, 陶红印, 谢天蔚 (1997) 《当代社会语言学》。北京:中国社会科学出版社。
- 于蓉 (2022) 手机号码分段折射语言文明规范,《中国语言战略》第9卷, 第1期, 50-51页。
- 张斌华 (2022) 书面语与口语中手机号码分段变异的比较分析——以东莞为例, <语言战略> (CCLASS) WeChat 公众号。(CCLASS) <http://www.chinalanguage.net/2022-4-17>
- 周明强 (2007) 言语社区构成要素的特点与辩证关系,《浙江教育学院学报》。2007 (5) : 59-64页。

(20) 電話番号の区切りに関する制度的規範と共同体規範

謝辞

ご査読の方々，編集部の皆様に感謝を申し上げます。